

「週の終わりと週の始まり」

安息と主日 ～この世と神の国～

ヨハネ5：10～25 8：31、32

イエス様がベテスダの池で38年間もの間、病にかかっている人と出会ったときのことです。イエス様は「良くなりたか。」と聞かれました。その人は「主よ。私には、水がかき回されたとき、池の中に私を入れてくれる人がいません。行きかけると、もう他の人が先に降りていくのです。」と答えました。イエス様は「起きて、床を取り上げて歩きなさい。」と言われました。すると、その人はすぐに直って、床を取り上げて歩き出しました。それは安息日のことでした。

一人の病の人をイエス・キリストが癒やしたことで問題が生まれました。その日が安息日であったためパリサイ人との間に争いが生まれました。

安息日は何のためにあるのでしょうか。神様が安息日を作られた目的は人に、祝福、恵み、自由、回復を与えるためです。

まず安息は神様の前に人間が出る祝福です。2番目は神様と人間が顔を合わせる恵みです。3番目は自由です。罪を犯して自由を失った人間が自ら存在する理由を見つけ、自らが一番願っていることを見いだすことです。4番目に回復がおこります。

パリサイ人たちは祝福に満ちた安息日を「しなければいけない」ルールに変えてしまいました。真の意味を失ったのです。

■ ① 決まりを恵みに戻す

このためユダヤ人たちは、イエスを迫害した。イエスが安息日にこのようなことをしておられたからである。イエスは彼らに答えられた。「わたしの父は今に至るまで働いておられます。ですからわたしも働いているのです。」ヨハネ5：16、17

パリサイ人たちはイエス様が安息日を破り、また神を自分の父と呼んでいることに腹を立てました。しかし、神様は旧約聖書の中でご自身を創造主であり父なる存在として現しておられました。(マラキ2：10)ルールが出来て神様を見失ったときから、彼らの中に父なる神の存在が失われ、神は裁きを行う方として存在するようになりました。私たちの中に「父なる神」がおられるかを確認しましょう。

■ ② 真の意味

私たちの価値観に真の意味が整っているでしょうか。真の意味を見いだしていないと家庭でも職場でも疲れてしまいます。真の意味を見失っていると心が騒ぎ、腹が立ち、病気になります。神様が最初に創造された人には病気も怒りもありませんでした。真の意味を失った人はそれを隠すために間違った方向に自分を導いてしまいます。真の意味とは私たちの内側に神様が生きると言うことです。クリスチャンとは自らに死んだ人の集まりです。

■ ③ 神様を自らに生かさせる

神様はその人本来の性質以外の様々な不必要な要素を少しずつ時間をかけて一つに戻そうとされています。正しい道に戻るために私たちは真実を知る必要があります。私たちは聖書を見ながら真実を知るために、自分が正しいと思う事と、そうでないことがあると言うことを知らなければなりません。

イエス様は「わたしには、あなたがたについて言うべきこと、さばくべきことがたくさんあります。しかし、わたしを遣わした方は真実であって、わたしはその方から聞いたことをそのまま世に告げるのです。」ヨハネ8：26

イエス様ご自身が、自分の主義を話されませんでした。私たちは、自分自身と神様のどちらを自分の中に生かすでしょうか？これがクリスチャンかクリスチャンでないかの生き方の違いです。礼拝とは私たち自身がズレていることを戻すためにあります。礼拝の中で神様が「あなた」に語られることは一つです。語られる言葉を幼子のように受け取ろうとするのか、自分の価値観と照らし合わせるのかで意味が違ってきます。パリサイ人たちは自分たちの価値観とイエス・キリストがやることが違うので殺そうとしました。礼拝の中で心が騒ぐなら、御言と自分の価値観が競合しています。自分の中に複数ある「統合されていない自己」と御言が対立しています。

イエスがこれらのことを話しておられると、多くのものがイエスを信じた。そこでイエスは、その信じたユダヤ人たちに言われた。「もしあなたがたが、わたしのことばにとどまるなら、あなたがたはほんとうにわたしの弟子です。そして、あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」ヨハネ8：30～32

自分が強ければ強いほど、この真理と対決します。この世と神の国は全く違います。その中で私たちは探そうとする必要があります。神様は私たちを導きます。導かれるときに、それを選ぶのかどうかを私たちは決めなければなりません。

イエス様がよみがえられたことを喜ぶ日、私たちは神の前に安息を得ながら、自らの心が真理に生きていることを探るのが主の日です。自分の人生をもう一度自由にするために、この場所に集い呼び集められたことを思い起こして祈っていきましょう。

■ 聖フランチェスコの祈り

主よ、わたしをあなたの平和の道具としてください。
憎しみのある所に、愛を置かせてください。
侮辱のある所に、許しを置かせてください。
分裂のある所に、和合を置かせてください。
誤りのある所に、真実を置かせてください。
疑いのある所に、信頼を置かせてください。
絶望のある所に、希望を置かせてください。
闇のある所に、あなたの光を置かせてください。
悲しみのある所に、喜びを置かせてください。
主よ、慰められるよりも慰め、理解されるよりも理解し、愛されるよりも愛することを求めさせてください。
なぜならば、与えることで人は受け取り、忘れられることで人は見出し、許すことで人は許され、死ぬことで人は永遠の命に復活するからです。

(要約者:日名 洋)

(2018年11月4日)